

## 教師力向上支援事業派遣研修報告書

- |           |  |
|-----------|--|
| 1 所属・職・氏名 | 南砺市立井波中学校・教諭・山崎 知絵   |
| 2 研修期間    | 令和5年8月29日(火)～令和5年9月6日(水) 9日間   |
| 3 調査研究課題  | 学校や地域のよさを生かす教育活動の在り方   |
| 4 研修機関等   | オーストリア：市内視察<br>ドイツ：ミュンヘン市教育・スポーツ局<br>在ミュンヘン日本国総領事館<br>オストヴュルテンベルク商工会議所<br>アーレントレーニングセンター、Zeiss 本社<br>デンマーク：デンマーク国立博物館、デンマーク王立図書館<br>ホイデバングェンス学校、ガメルヘレロップ高校<br>在デンマーク日本国大使館 |

### 5 研修の概要

#### (1) ドイツの教育から

ドイツの教育の大きな特徴は複線型の教育を行っていること、デュアルシステムを取り入れていることである。日本でいう小学校は6歳から10歳までの5年間で、小学4年生の段階で進路選択を行うことになる。小学4年生までの成績を鑑みて進学先を担任と相談し、大学進学者向けのギムナジウム、16歳から企業で就業する人向けのリアルシューレ、15歳から職人として就業する人向けのハウプトシューレの3種類の学校から選択する。デュアルシステムとは、ハウプトシューレ、リアルシューレを卒業後、企業における訓練を受けながら、職業学校にも通う職業教育のことである。

##### ① ミュンヘン市教育・スポーツ局

主に職業学校について伺った。ミュンヘンには職業学校が87校、リアルシューレが24校、ギムナジウムが12校あり、職業学校が重要な役割を担っている。職業学校で訓練する業種は130以上、職業学校に勤める教員は2400名以上であり、企業と学校が協力しながら生徒を育てている。例えば、ミュンヘンにある企業大手のBMWは、実際の機械を職業学校に提供して学校でも実習をできるようにしており、社会に出てすぐに技能が生かせるシステムが構築されている。

##### ② 在ミュンヘン日本国総領事館

前川信隆総領事よりお話を伺った。在ミュンヘン日本国総領事館はドイツの南部のバイエルン州、バーデンヴュルテンベルク州の2州を管轄している。シーメンス、BMW、アディダス、アウディ等の大きな企業もあるが、内部の経済のほとんどは中小企業が占めている。この2州は特にものづくりが得意であり、それを生かした企業が多い。また、学術に優れた地域であり、レベルの高い大学がたくさんある。重点的に数年間にわたって財政支援をしていくエリート大学選考に選ばれた大学がバイエルン州には2つ、バーデンヴュルテンベルク州には4つある。

##### ③ オストヴュルテンベルク商工会議所、アーレントレーニングセンター、Zeiss 本社

商工会議所の役割を伺ったり、実際の職業訓練施設や設備、訓練の様子を拝見したりした。デュアルシステムが取り入れられ、学校で社会に必要な理論を学び、企業で実務に基づいた訓練を行っている。学校と企業の教育の割合は約3：7である。Zeiss 本社では、一度に受け入れる訓練生は100人超であり、3年間学ぶので300人以上が同時に訓練を受けていることになる。デュアルシステムによって、企業は優秀な社員の確保、地域に役立つ人材育成、それによる社会貢献等、訓練生は、技術の習得、自分に適した職選び等の利点がある。

ドイツでの視察を通し、ドイツでは早い段階から将来を意識しなければならず、成績によっては自分の意に反するキャリア選択をしなければならない環境にあることに厳しさを感じた。しかし、ものづくりや商業が得意な生徒を生かす場があること、進路変更柔軟性があることは複線型教育のよさだと思う。また、強みを大事にし、あるものを生かすという考え方が根付いているのではないかと感じた。さらに、ミュンヘン市教育・スポーツ局では、自分たちのことをドイツ人というよりミュンヘン人だと思っていると聞き、前川信隆総領事からは、みな自分

の町や村を中心に世界が回っているくらいの感覚であるという言葉をお聞きした。このことから、地域に愛着をもっていることが伺える。小さい頃からふるさとを大切にしている教育が行われていることや、地域のことを学ぶことが好きであるということも背景にあると考えられる。このような自分の地域を誇りに思える子供たちを育てていきたいと感じた。

## (2) デンマークの教育から

デンマークの学校は、日本の小中学校にあたる義務教育の国民学校が0年生から9年生まであり、10年生は選択制である。1年生から9年生までクラス替えはなく、同じ担任と過ごす。基本的に学区制で、約80%の子供たちが公立に通っている。公立であれば大学院まで学費は無料である。日本のように教育を受けさせる義務はなく、子供にどのような教育を受けさせるかは親が決めることができ、家庭で教育を受けさせることもできる。

### ① ホイデバンゲンス学校

ホイデバンゲンス学校は7～9年生が通っている。0～6年生と7～9年生が分かれているケースは珍しく、デンマークで2、3校しかない。校長先生から、学校が楽しいと感じること、対話を通して理解すること、人生の学校と捉え人を育てることを大切にしていると伺った。また、子供たちがもっている可能性を伸ばせる環境づくりも大切にしておられた。参観した美術の授業では、先生方は生徒たちが質問することに対して相談に乗り、「こうしなさい」ということはなく、対話しながらアドバイスをしておられた。生徒たちの想像力を伸ばすことを大切にしていることが伝わってきた。

### ② ガメルヘレロップ高校

ガメルヘレロップ高校は学校目標として、「学術的」「仲間」「多様性」を掲げている。SDGsを意識し、全ての科目の中に環境の視点を取り入れている。日本の総合的な学習の時間のような授業もあり、自分でテーマを決めて自分で研究を進め、20ページ程度の卒業論文が課される。デンマークは小さな国であり、デンマークのことを学ぶ時間はあるが、自分の住んでいる地域について学校で学ぶことはない。参観した物理の授業では、どの生徒も友達の発言に耳を傾け、意見を述べようと手を挙げ、仲間と協力しながら実験を行うなど、意欲的に取り組む姿が見られた。



デンマークでの視察では、子供たちがのびやかに学んだり自分の考えを堂々と述べたりする姿が印象的だった。デンマークでは8年生まで成績が付かず、競争して比べられることが少ないこと、小さい頃から話し合いながら高みを目指し合意形成を図ったり意思決定をしたりしていることを伺い、それが子供たちののびやかに学ぶ姿や積極的に意見を述べ合いながら学ぶ姿につながっていると感じた。

## (3) 研修を終えて

海外教育事情視察を通して、各国の教育制度や教育への考え方、文化や生活等を肌で感じる事ができた。それぞれの国の社会や文化が背景にあり、それらが教育の方針や制度とつながり、子供たちの学ぶ姿につながっていると感じた。日本人は自分の考えを表現することが苦手だと言われているが、協調性や道徳性の高さは世界に誇れることであると思う。教育の制度や方針が異なっても、ドイツの「生徒や地域の強みを生かすこと」や、デンマークの「対話を通して互いに理解し合うこと」等、日本の教育でも生かせる考え方がある。学校や地域のよさを生かした教育活動を推進したり、生徒のよさを大切にしながら対話を通して学びを深めたりすることを大切にし、郷土を誇りに思い、主体的に学び、将来の日本で活躍する子供たちを育てていきたい。この視察での出会いやつながりを大切に、何をどう見て何を学ぶかという視点を持ち、自分自身を成長させ、学び続けていきたい。

このような大変貴重な機会を与えてくださった富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会をはじめとするすべての皆様に心より感謝申し上げます。